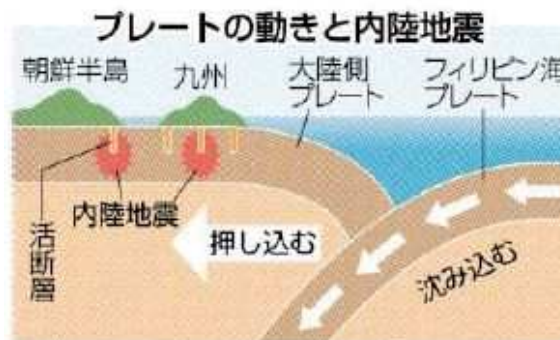


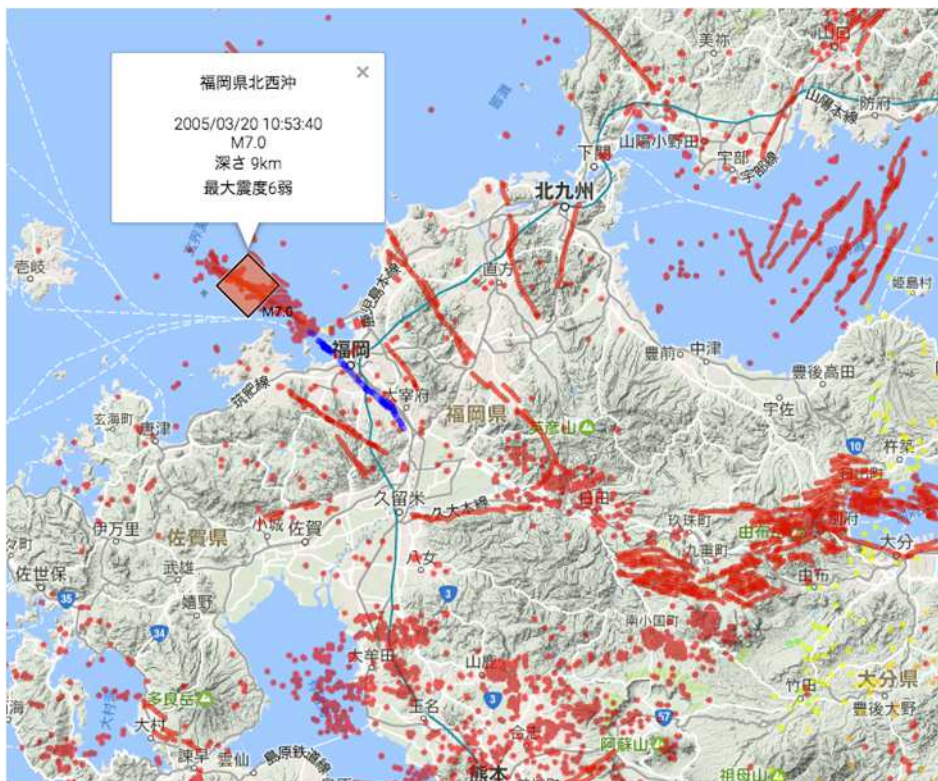
九州北部の地震活動について

昨年(2016年)は熊本地震という極めて激しい地震が熊本を中心に発生しました。そしてさらに南西方向(鹿児島県側)への地震活動の拡大も危惧されています。

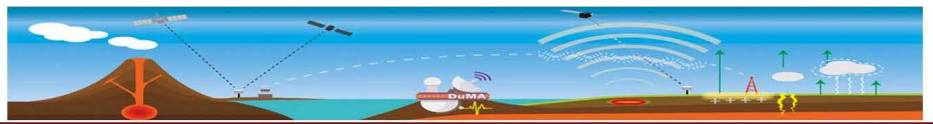
しかしながら、この地震活動(熊本地震)は広い意味で将来発生が予想されている南海トラフ沿いの巨大地震の準備の一環と考えられます。実際昨年は熊本地震だけでなく、9月12日には韓国・釜山の北東でマグニチュード5.8という近年では韓国史上最大の地震が発生しました。この地震は基本的に熊本地震と同じしくみで発生したと考えられています。



また、もう10年以上前になりますが、2005年3月には博多湾の北西でマグニチュード7の地震が発生し、震源に近かった玄海島では住宅の半数が全壊し、博多でもビルの窓が割れるなどの大きな被害がでました(福岡県西方沖地震)。



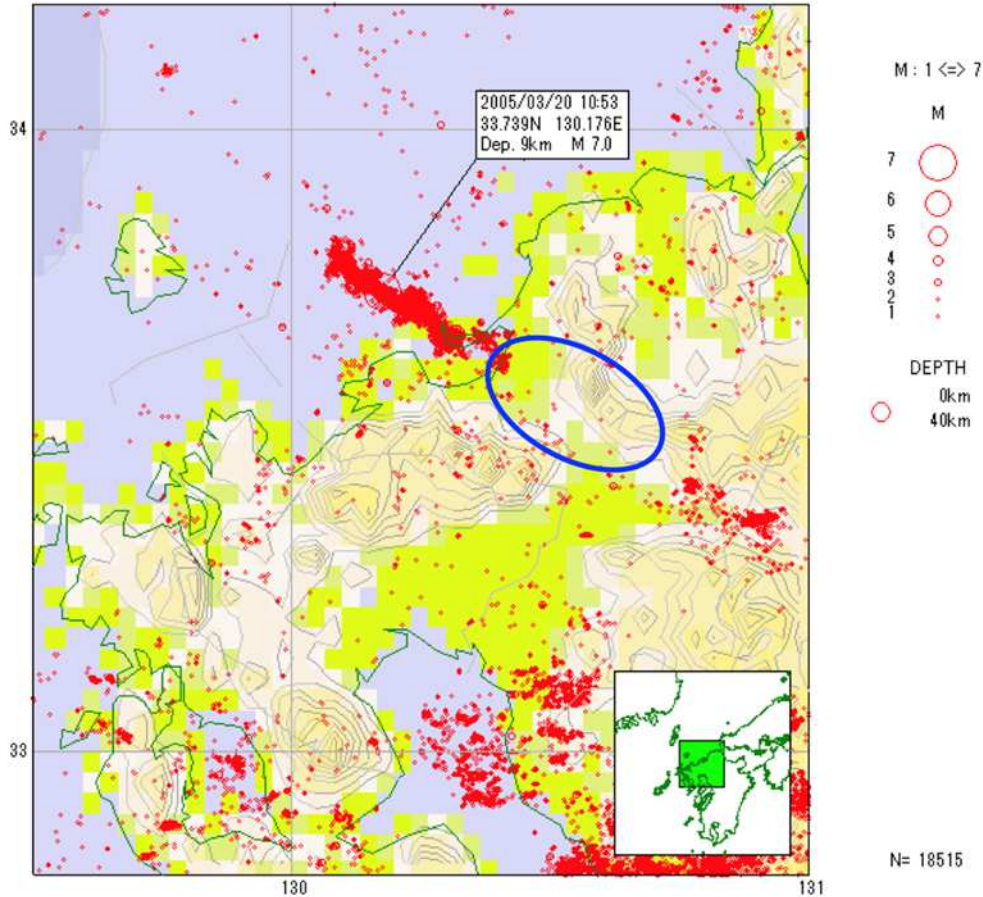
この福岡県西方沖地震を引き起こしたのは警固(けご)断層と呼ばれる断層です。そしてこの断層はまさに福岡市の直下に伸びている断層です。上の図は2005年の地震の位置と、九州北部の活断層の分布です。青色の線がまだ割れ残っている警固断層の部分(セグメントと言います)



です。さらに周囲には平行にいくつもの断層が存在しているのがわかります(赤い点は地震を表しています)

つまり、2005年の福岡県西方沖地震、2016年熊本地震を考えると、九州北部では、地震学の常識としても極めて内陸の大地震が発生しやすい状況となっており、実際に先行的な地震活動とも思える活動が発生している事が確認されています。

1999 1/1 0:0 -- 2017 5/10 23:59

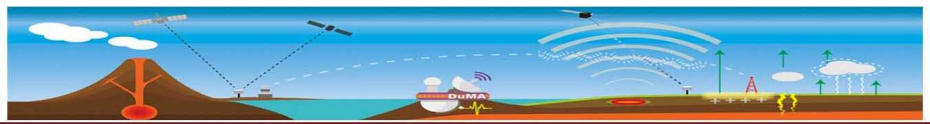


上の図は、1999年から2017年5月10日までのマグニチュード1以上のすべての地震を図示したものです。そして上の図中の警固断層の延長部には明瞭な地震活動の空白域が広がっています。つまり2005年に警固断層の北側が割れて、南側(上の図中の青い楕円で囲った領域)が割れ残っているのです。

九州は熊本地震の発生により、背景的な地震活動のパターンが変わってしまい、現時点で地下天気図の異常抽出能力が低下しています。

九州の陸域に特化した地下天気図解析®

次のページの図は、1999年以降の地震データを用いた九州の陸域に解析対象を絞った地下天気図です。現時点では、青い地震活動静穏化領域は観察されていません。熊本地震に関連する地震活動の活発化(赤い領域)が見えますが、この図からは地震発生が差し迫っている兆候は出ていないのですが、地震学の常識的な考えを適用すると、九州北部は極めて地震発生の可能性が高い地域である事をご理解頂けるのではないかと思います。DuMAとしても、地下水の異常など、



2005年の福岡県西方沖地震の前にみられた異常にも着目し、多角的な情報収集を続けていく所存です。

